

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
出生・発達分科会（第26期・第19回）
議事要旨**

1. 日 時 令和7年6月25日（水）9:30-11:10

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、藤井知行（以上、会員）

石崎優子、古庄知己、島 蘭 進、柘植あづみ、船曳康子、水口 雅、水野紀子、武藤香
織、米村滋人（以上、連携会員）

笹月桃子（連携会員（特任））

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

（1）見解案作成の今後のスケジュール

7月17日と31日に予定通りオンライン会議を行い、8月にも2回会議を開催し、見解をまとめることとした。9月に分野別委員会、10月に第二部役員会の査読を受け、12月に最終版を科学的助言等対応委員会審議にかける方向とした。

（2）シンポジウム等

見解案について、関係学会や日本学術会議のフォーラムないしシンポジウム等で意見を求めて行くことを確認した。11月開催の第69回日本新生児成育医学会学術集会の中で、この見解についてのシンポジウムを開催し、実際に新生児医療の現場で働いている医師、看護師の意見を求めることとした。現時点で熊谷、高橋、島蘭、米村、笹月の委員が参加予定。一方、当初、第37回日本生命倫理学会年次大会でもワークショップを開き、意見を求めるとしていたが、参加できる委員がほとんどいないため、こちらは申し込まないこととした。

また、日本学術会議フォーラムを開くことを検討した。2026年3月を予定とするが、事務局からフォーラムの申し込みが増えていることなどもあり、今後の開催方法について検討が必要な状況であることの説明があった。今後、どのような形式が良いのかも含めて検討して行くこととした。

（3）「現代の新生児医療における倫理的意思決定基準および代理意思決定の考え方」見解

案の検討

委員長の高橋が作成した見解案（資料１）と図（資料２）をもとにして、高橋が全体の構成および意図について説明を行った。その後、参加の各委員全員がそれぞれに意見を述べた。

全体の構成については、大きな修正が必要という意見はなかったが、「長期的医療・養護を要する場合」の部分は構成も再検討することとした。

内容については、各委員それぞれの専門分野を中心に多くの率直な意見が述べられ、検討が必要な部分が概ね明確になった。今後、次回の会議までに委員の意見を収集し、各委員の専門の部分については基本的にそれらの意見を修正案に取り込んで行く方向とした。特に大きな検討が必要な事項として、「苦痛」に関する部分が挙げられ、この点は「見解」にも深く関わることから、今後、慎重に検討することとした。

いわゆる「見解」の部分については、長さについて再確認することとした。また構成については、小見出しをつけるかどうか再度検討することにした。内容については、概ね否定的な意見はなかったが、「苦痛」の部分など修正が必要な箇所がある程度明確になったことから、今後さらに改善して行く方針とした。「意思決定の方法」についても、特に ZPD やネグレクトに関する部分を中心に修正を続けていくこととなった。

(4) 日程調整

8 月の 2 回の会議の日程調整を、今後、速やかに行うことを確認した。

(5) その他

特になし

以上